



平成18年3月期 第3四半期業績の概況(連結)

平成18年2月8日

会社名 シダックス株式会社
(URL <http://www.shidax.co.jp/>)

(JASDAQ・コード番号: 4837)

代表者 役職名 代表取締役社長
氏名 志太勤一

問い合わせ先 責任者役職名 取締役 経理財務本部長 兼 IR 担当
氏名 荻野 裕

TEL: (03) 5784-8909

1. 四半期業績の概況の作成等に係る事項

- 会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無 : 無
最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更の有無 : 有
(内容) 当第1四半期より「固定資産の減損に係る会計基準」及び「固定資産の減損に係る会計基準の適用指針」を適用しております。これによる減損損失は、2,501百万円であります。
連結及び持分法の適用範囲の異動の有無 : 無

2. 平成18年3月期第3四半期業績の概況(平成17年4月1日~平成17年12月31日)

(1) 経営成績(連結)の進捗状況

	売上高		営業利益		経常利益		四半期(当期)純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
18年3月期第3四半期	119,582	2.6	4,876	114.3	4,678	139.2	306	43.3
17年3月期第3四半期	116,571	10.7	2,275		1,956		540	
(参考)17年3月期	155,264		3,364		2,840		127	

- (注) 1. 売上高以外の四半期経営成績の開示は前四半期から行っているため、前々年同四半期については記載しておりません。
2. パーセント表示は、対前年同四半期増減率を示しております。
3. 売上高、営業利益等の数値は独立監査人の監査を受けておりません。

[売上高に関する補足説明]

事業の種類別セグメントの売上は、次のとおりであります。

平成17年3月期第3四半期

(単位: 百万円)

	エッジックス事業	コントラクトサービス事業	メディアサポートサービス事業	レストラン加務事業	コンビニエンス中食事業	その他の事業	計	消去又は全社	連結
売上高									
(1) 外部顧客に対する売上高	8,206	30,466	27,403	46,771	3,034	689	116,571		116,571
(2) セグメント間の内部売上高	29,813	39		3		399	30,256	(30,256)	
計	38,020	30,506	27,403	46,774	3,034	1,089	146,828	(30,256)	116,571

平成18年3月期第3四半期

(単位: 百万円)

	エッジックス事業	コントラクトサービス事業	メディアサポートサービス事業	レストラン加務事業	コンビニエンス中食事業	その他の事業	計	消去又は全社	連結
売上高									
(1) 外部顧客に対する売上高	3,945	30,316	29,396	46,190	8,934	799	119,582		119,582
(2) セグメント間の内部売上高	30,512	39	11	2		550	31,117	(31,117)	
計	34,457	30,356	29,408	46,193	8,934	1,349	150,700	(31,117)	119,582

(エスロジックス事業)

前期において外販事業の一部を営業譲渡したことで外部売上高は減少しております。一方、グループ戦略の根幹である当社グループのフードサービス事業における食材仕入コスト削減については、店舗・事業所からの要望にきめ細かく対応出来る体制を拡充したことで、導入率はほぼ計画通りとなりグループ全体の収益向上に大きく貢献いたしました。また、前期より本格的に稼働した消耗品一元物流事業も順調に拡大しております。

以上の結果、外部顧客売上高は3,945百万円(前年同期比51.9%減)となりました。

(コントラクトフードサービス事業)

当四半期末店舗数は1,677店舗となり、前年同四半期末と比較して14店舗増加いたしました。運営面においては、原価管理が順調に改善したことで収益性は向上し、モデル店舗と標準メニューシステムを一層進化させたことで競争力を増しました。また、公立小中学校の業務拡大については、49施設の新規受託を行い運営基盤の拡大をすることが出来ました。

以上の結果、売上高は30,316百万円(前年同期比0.5%減)となりました。

(メディカルフードサービス事業)

当四半期末施設数は979施設となり、前年同四半期末と比較して77施設増加いたしました。運営面においては、前期に引続き管理栄養士を事業所マネージャーに積極登用し、さらに作業工程改善プロジェクトを立ち上げるなど既存店の運営強化を図ることで収益性の向上が進んでおります。また、業務拡大を一層図るため営業開発体制の整備をなお一層進め新規店の開発を強化するとともに、従業員教育を充実させてまいりました。

以上の結果、売上高は29,396百万円(前年同期比7.3%増)となりました。

(レストランカラオケ事業)

当四半期末店舗数は306店舗となり、前年同四半期末と比較して6店舗増加いたしました。当業界においては依然として競争激化が続いておりますが、前年10月3日よりスタートしたチェンジ・シダックスキャンペーンでのカラオケ機器の最新機種への大幅入替えや健康志向にマッチした飲食メニューの投入などお客様から多くの好評を頂くことが出来ました。また、サービスレベルの向上とクレームの削減を目的に、従業員教育を徹底して行い、これについてもお客様より好評を頂くことが出来ました。既存店舗の売上前年同四半期比は93.7%の結果となりましたが、前述の様々な施策がお客様獲得の成果を結んでおり、今後の業績拡大の布石を敷くことが出来ました。

以上の結果、売上高は46,190百万円(前年同期比1.2%減)となりました。

(コンビニエンス中食事業)

当四半期末店舗数は325店舗となり、前年同四半期末と比較して13店舗増加いたしました。当四半期においては、既存店舗の運営レベルの向上を図るとともに、新規店の開発に注力してまいりました。国公立病院の売店に限らず、一般病院も競争入札が一般化するなど経営環境は厳しくなっておりますが、メディカルフードサービス事業との相乗効果が徐々に発揮されたこともあり、新規店舗開発体制強化の成果が上がりつつあります。

以上の結果、売上高は8,934百万円(前年同期比194.5%増)となりました。なお、当該セグメントは前年下期より新規追加されておりますので、前期は3ヶ月間、当期は9ヶ月間の数値となっております。

(2) 当該四半期において企業集団の財政状態及び経営成績に重要な影響を与えた事象

該当する事象はございません。

3. 平成18年3月期の連結業績予想(平成17年4月1日~平成18年3月31日)

	予想売上高	予想経常利益	予想当期純利益
	百万円	百万円	百万円
通 期	157,000	5,300	150

[業績予想に関する定性的情報等]

本日(平成18年2月8日)発表いたしました「平成18年3月期通期(連結・単体)業績予想の修正について」をご覧ください。

(注) 上記の予想は現時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以 上